

経営工学部会 2010年2月例会 運営概要

2009/10/29 企画担当 山根幹大

1. 開催日時場所等

日 時：2010年 2月4日（木）18：00～20：15

場 所：日本技術士会荻手第2ビル5階A, B会議室

部構成： 第1部 技術士会活動報告 18：00～

第2部 ビジネス情報交換会 引き続き～18：30

第3部 ビジネス研究会 18：30～20：15（105分）

懇親会 講師を囲んで 20：20～21：00（40分）

2. 第3部 ビジネス研究会概要

1) 運営形式：パネルディスカッション方式

コーディネータのテーマ・課題説明 5分、パネリスト発表 20分×3＝60分

意見交換（パネリスト間、パネリスト～来場者間） 35分、まとめ 5分

2) 討論テーマ：緊急課題に対応するコンサルティング革新

～経営を活性化するコンサルタント業務に資する～

コンセプト：現在の経営環境における問題は、供給面より需要面の縮退にあり、デマンドサイド（マーケティング）からの掘り起こし、その上で少需要に対する供給（生産、SCM）革新を实践する。また、プロダクトアウト→マーケットイン志向の先にある企業の社会志向として ISO26000 対応を取り上げる。

発表テーマ		パネリスト
a	21世紀型生産システム確立への取り組み ～持続可能なミニマルファブ構想～	独立行政法人 産業技術総合研究所 エレクトロニクス研究部門 先端シリコンデバイスグループ 主任研究員 ファブシステム研究会代表 原 史朗氏
b	SCM現場の陥りやすい問題と課題の解決	(株)日立製作所 トータルソリューション事業部 産業システム部 石野 智子氏
c	見えてきた社会的責任SR規格“ISO26000”への準備	吉澤経営研究所 代表 経営管理チーム所属 吉澤 光男氏

第3部 ビジネス研究会：パネルディスカッション方式 2009/12/05

討論テーマ：緊急課題に対応するコンサルティング革新

～経営を活性化するコンサルタント業務に資する～

コンセプト：現在の経営環境における問題は、供給面より需要面の縮退にあり、デマンドサイド（マーケティング）からの掘り起こし、その上で少需要に対する供給（生産、SCM）革新を実践する。また、プロダクトアウト→マーケットイン志向の先にある企業の社会志向として ISO26000 対応を取り上げる。

コーディネータからテーマ・課題と進め方のご説明：18:30-18:35

(1)パネリストの方の発表・・・20分×3=60分

パネリストの発表毎に、発表後來場者からの質問・・・5分×3=15分

(2)パネリストと来場者との意見交換・・・20分

(1)-①パネリスト：原 史朗氏 発表と来場者からの質問：18:35-19:00

所属：独立行政法人 産業技術総合研究所 エレクトロニクス研究部門 先端シリコンデバイスグループ 主任研究員 ファブシステム研究会代表

略歴：早稲田大学理工学部助手、理化学研究所基礎科学特別研究員を経て、1993年、電子技術総合研究所入所。ショットキーダイオードの特性ばらつきの根源を追い求め、その原因究明のために、局所クリーン化リサーチシステムを開発。2001～2002年 財団法人 新機能素子研究開発協会 研究開発部統括部長兼企画室長。著書「局所クリーン化の世界」。現在、独立行政法人産業技術総合研究所エレクトロニクス研究部門主任研究員。ファブシステム研究会代表。

発表テーマ：21世紀型生産システム確立への取り組み～持続可能なミニマルファブ構想～
要旨：産総研では、変種変量生産で、投資額も自由な半導体デバイス生産システムの概念とその実現戦略～ミニマルファブ構想～を創出した。ICチップを一つずつ作るに十分なハーフィンチウエハを用いる、月産4万個の真の一個流し生産システムである。現在、企業数十社と産総研で構成するファブシステム研究会を組織し、未来のユーザを取り込みながら包括的な開発を始めた。本日は、この理想システム実現の、その技術と戦略をお話する。

(1)-②パネリスト：石野 智子氏 発表と来場者からの質問：19:00-19:25

所属：(株)日立製作所 トータルソリューション事業部 産業システム部

略歴：1987年(株)日立製作所に入社。配属後、資材EDIアウトソーシング事業立ち上げに参画。電子機械工業会標準化に加え、国連/EDIFACT 国際標準化作業部会の日本代表も務めた。以降、資材、製造、ロジスティクス、SCMの業務改革コンサルタントとして、製造業（自動車、機械、消費財等）や運輸会社等幅広い業種の業務改革を手掛ける。2008年から技術士（経営工学部門）として、日本経営工学会、日本IE協会での講演も行っている。

発表テーマ：SCM現場の陥りやすい問題と課題の解決

要旨：SCMの検討段階としては大手企業中心に顕在的な大きな改革が見込める改革はほぼ一巡した感があり、一昨年秋より深刻化した世界的大不況も手伝い、企業体質強化や更なるコスト低減のための潜在的な問題に視点を移した2巡目の改革が始まっている。10年以上にわたり様々な企業のSCM構築のプロジェクトにコンサルタントとして関わってきた経験に基づき、プロジェクト推進上の共通の留意点につきご説明する。

(1)-③パネリスト：吉澤 光男氏 発表と来場者からの質問：19:25-19:50

所属：吉澤経営研究所代表 経営管理チーム所属

略歴：製鉄会社（新日本製鉄）にて金属塑性加工の研究、鋼管製造部門における生産技術・品質管理、工場建設、鉄鋼設備投資計画の企画などを経験した。続く本州四国連絡橋エンジニアリングでは、長大橋の機能・強度調査、点検・補修に携わった。現在は、技術コンサルタントとして旧共産圏諸国における金属加工工場の操業指導、国内中小企業のISO認証取得支援や社員教育に係わっている。

発表テーマ：見えてきた社会的責任SR規格“ISO26000”への準備

要旨：品質及び環境に続く国際規格といわれる社会的責任（SR）の規格化検討も国際規格原案（DIS）の回付段階に至り、2010年秋の発行が予定されている。この規格は、「社会的責任の手引き」として認証を必要としないガイダンスと決定された。然るに、規格の検討と平行して進む諸外国の対応動向を俯瞰すると、企業の国際ブランドを維持する上で欠かせない影響力を有することがわかる。

(2)パネリストと来場者との意見交換：19:50-20:10

まとめ：20:10-20:15

以上